



概要

Transaction Language 1 (TL1; トランザクション言語 1) は、International Telecommunications Union (ITU; 国際電気通信連合) Man-Machine Language (MML) に含まれる入力メッセージおよび出力メッセージのサブセットです。TL1 は、OS (オペレーティング システム) とネットワーク要素、およびユーザとネットワーク要素との通信に使用できるメッセージの標準セットを提供します。TL1 についての詳細は、Telcordia ドキュメント GR-833-CORE『*Network Maintenance: Network Element and Transport Surveillance Messages*』を参照してください。

この章では、TL1 の概要および初歩的な操作手順について説明します。

- 1.1 コマンド構文 (p.1-1)
- 1.2 自律メッセージの構文 (p.1-2)
- 1.3 コマンド完了の動作 (p.1-3)
- 1.4 ユーザセキュリティ レベル (p.1-5)
- 1.5 キーボードショートカット (p.1-6)
- 1.6 混合モードタイミングのサポート (p.1-6)
- 1.7 デフォルト値 (p.1-6)
- 1.8 パラメータ タイプ (p.1-10)

1.1 コマンド構文

TL1 コマンドは、次の構文を使用します。

```
a:b:c:d:e: ... z;
```

ここで、

「a」は、コマンドコードです。

「b」は、Target Identifier (TID; ターゲット ID) です。

「c」は、Access Identifier (AID; アクセス ID) または User Identifier (UID; ユーザ ID) です。

「d」は、Correlation Tag (CTAG; 相関タグ) です。

「e: ... z;」は各種のコマンドに必要なその他のポジションです。

TID、AID、および CTAG は、TL1 コマンドの送信先を決定し、制御します。その他のパラメータは、コマンドが要求する動作を完了するために必要なその他の情報を提供します。TL1 コマンドコード、パラメータ名、およびパラメータ値は、コマンドの説明で特に明記しないかぎり、大文字または小文字だけでも、両者を組み合わせてもかまいません。

TID は、各システムをインストールするときにそのシステムに割り当てられた一意の名前です。この名前は、各コマンドの対象となる特定の NE (この場合、ONS 15454 SDH) を識別します。TID の値としては、任意の TL1 識別子またはテキスト文字列を使用できますが、最大 20 文字に制限さ

れています。識別子には、任意の個数の英字または数字を使用できますが、先頭は英字でなければなりません。テキスト文字列は、二重引用符で囲んだ任意の英数字または句読記号です。TID はすべての入力コマンドで必須ですが、TID の値はヌル (2 つの連続するコロンで表す) にすることもできます。OS がターゲット NE と直接通信する場合、TID はヌルにできます。TID を使用する場合、推奨される値は、ターゲットの Common Language Location Identifier (CLLI) コードです。ノードの TID を確立するには、CTC の Provisioning > General タブを使用します。

AID は、NE の特定のオブジェクトを識別およびアドレス指定するアクセス コードです。これらのオブジェクトとしては、個別の機器、伝送スパン、アクセストリビュタリなどが含まれます。

CTAG は、ユーザがそれぞれの入力コマンドに割り当てる Unique Identifier (UID; 固有識別情報) です。NE が特定のコマンドに回答するとき、その回答にはコマンドの CTAG が含まれます。CTAG が含まれていることで、コマンドとその応答との対応関係に食い違いが生じません。有効な CTAG 値としては、識別子 (先頭を英字とする英数字) からなる最大 6 文字の文字列、または 10 進数値 (数字の文字列、末尾以外の場所で任意に「.」を使用可) があります。

このマニュアルでは、構文の説明に次の記号を使用しています。

- <> で、シンボル指定子を囲みます。例：<CTAG>
- [] で、省略可能なシンボルを囲みます。例：[<TID>]
- “” で、リテラル文字を囲みます。例：出力形式 “SLOT-7:PLUGIN,TC,,,,,:\“EQUIPMENT PLUG-IN”,TCC”
- ^ は、スペース (リテラルの空白文字) であり、メッセージ例でのみ使用します。

1.2 自律メッセージの構文

自律メッセージは、アラーム、設定の変更、または条件の変化をレポートします。これらのメッセージの多くは (アラーム条件に関連するメッセージなど)、介入なしで NE によって自動的にトリガーされます。その他のメッセージ (定期的な条件ステートやパフォーマンス データ値のレポートに関連するメッセージなど) は、NE ユーザ が他のコマンドを使用してスケジュール設定します。ユーザが NE に対して自律メッセージを発行することはないので、自律メッセージには入力形式や入力例はありません。

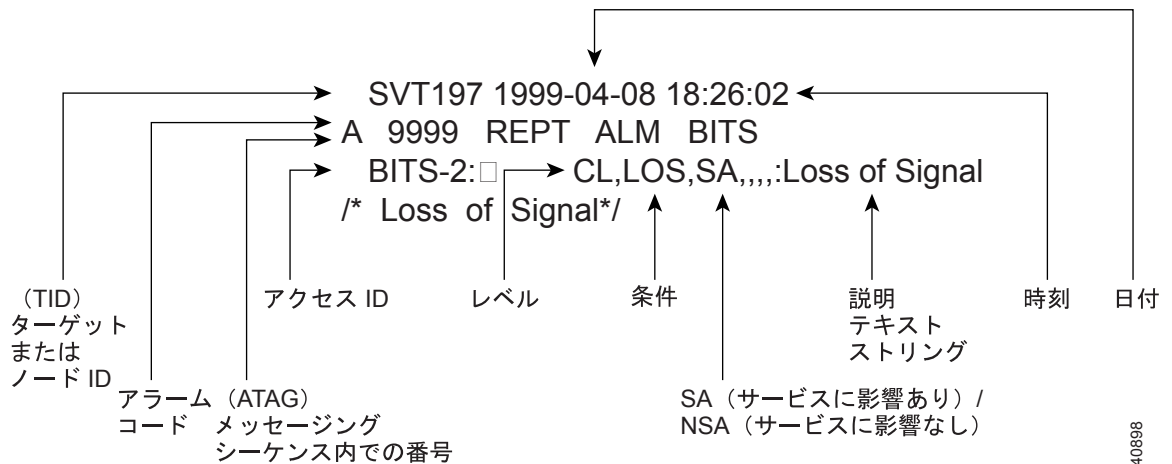
自律 TL1 メッセージは、『Cisco ONS 15454 SDH TL1 Command Guide』に記載されています。図 1-1 に、自律メッセージの形式を示します。自律メッセージタグ (ATAG) を使用して、メッセージの順序付けが行われます。NE が自律メッセージを送信するたびに、この番号が 1 ずつ大きくなります。Cisco NE は、0000 ~ 9999 の範囲の整数を使用します。



(注)

一部の自律メッセージ (REPT DBCHG、REPT EVT SESSION など) は、図 1-1 の 3 行目に示されている形式とやや異なります。

図 1-1 自律メッセージの形式



1.2.1 アラームコード

アラームコードは、自律メッセージの重大度を表します。アラームコードの有効な値は、重大度の高い順に次のとおりです。

- *C クリティカルアラーム
- ** メジャーアラーム
- *^ マイナーアラーム
- A^ 非アラームメッセージ

クリティカル、メジャー、およびマイナーは、アラームイベントのレポートに対応します。非アラームメッセージの表示は、非アラームイベント、定期的な計測、または前にスケジュールされた診断または監査の結果を NE がレポートするときに使用されます。同じメッセージで複数のアラームがレポートされる場合、アラームコードはそれらの中で最高の重大度を表します。

次に、クリティカルアラームコードを含む出力メッセージの例を示します。

```
AB7-56 1970-01-01 16:02:10
*C 100.100 REPT ALM EQPT
"SYSTEM:CR,HITEMP,NSA,,,";"High Temperature",TCC"
```

1.3 コマンド完了の動作

TL1 コマンドを入力すると、次の3種類のいずれかの完了コードが返されます。完了コードは、完了 (COMPLD)、部分的 (PRTL)、および拒否 (DENY) です。次に説明するように、明示的リスト、暗黙的リスト、または明示的リストと暗黙的リストの組み合わせを指定できます。

1.3.1 一般的なルール



(注)

コマンド完了の動作は、RTRV-CRS、RTRV-ALM、および RTRV-COND コマンドには適用されません。

1.3.2 クロスコネクットの取得に関するコマンド完了の動作

1.3.1.1 AID の明示的リスト — ワイルドカードなし

AID のセット (1 つだけの AID からなるセットも含めて) を明示的にリストした場合、各 AID が正常に完了したときにのみ、COMPLD メッセージが返されます。セットに複数の AID があり、最低 1 つの AID が成功したけれども全部が成功したわけではない場合、PRTL および失敗した各 AID に対応するエラーが返されます。セット内のすべての AID が失敗した場合、DENY および失敗した各 AID に対応するエラーが返されます。

```
SLOT-1
FAC-2-1&FAC-3-3&FAC-4-2
```

1.3.1.2 AID の暗黙的リスト — 1 つの AID とワイルドカード

1 つの AID に ALL 修飾子を使用することによって AID のセットを暗黙的に指定した場合、「1.3.1.1 AID の明示的リスト — ワイルドカードなし」(p.1-4) と同じルールに従います。注意すべき点として、暗黙的リストには、次のコマンドに適用する AID だけが含まれます。

```
SLOT-ALL
FAC-1-ALL
VC-3-ALL
```

ここで、スロット 3 には STM-4 が含まれ、コマンドは ED-VC3 ですが、VC-3-4 および VC-3-7 は VC-4 です。VC-3-ALL によって暗黙的に指定されるセットに含まれるのは VC-3-{1,2,3,10,11,12} だけであり、VC-3-{4,5,6,7,8,9} の場合、エラーは返されません。コマンドの修飾子で、ユーザの関心があるのは VC-3 パスだけであることが指定されているので、この場合 VC-4 は無視します。ここで指定したルールは、暗黙的なセット {1,2,3,10,11,12} に適用されます。

1.3.1.3 明示的リストと暗黙的リストのグループ化

AID のセットが 2 つのサブセット (一方は明示的に指定された AID を含み、もう一方は ALL 修飾子付きの 1 つまたは複数の AID によって暗黙的に指定されるセット) で構成される場合、「1.3.1.1 AID の明示的リスト — ワイルドカードなし」(p.1-4) および「1.3.1.2 AID の暗黙的リスト — 1 つの AID とワイルドカード」(p.1-4) に記載されているルールにそれぞれ従います。

```
FAC-1-1&FAC-2-ALL
FAC-3-ALL&FAC-7-ALL
VC-2-ALL&VC-12-1&VC-13-2&VC-14-ALL
```

1.3.2 クロスコネクットの取得に関するコマンド完了の動作

RTRV-CRS コマンドを入力すると、次の 3 種類のいずれかの完了コードが返されます。完了コードは、COMPLD、PRTL、および DENY です。次に説明するように、明示的リスト、暗黙的リスト、または明示的リストと暗黙的リストの組み合わせを指定できます。

1.3.2.1 AID の明示的リスト — ワイルドカードなし

RTRV-CRS コマンドに AID の明示的リストを指定する場合、検証に失敗した AID (たとえば、SLOT-N に STM-4 しか含まれないにもかかわらずユーザが VC-N-13 を指定した場合)、またはマッチするクロスコネクットが見つからない AID ごとにエラーが返されます。完了コードを判別するには、「1.3.1.1 AID の明示的リスト — ワイルドカードなし」(p.1-4) に記載されているルールに従います。結果が PRTL または COMPLD のいずれかである場合、マッチするクロスコネクットのリストが応答に含まれます。

1.3.2.2 AID の暗黙的リスト — 1つの AID とワイルドカード

1つの AID に ALL 修飾子を使用することによって AID のセットを暗黙的に指定する場合、「1.3.1.2 AID の暗黙的リスト — 1つの AID とワイルドカード」(p.1-4) の例で定義されているものと同じ AID 拡張ルールに従います。このセットに次のルールを適用します。

1. すべての有効な AID でマッチが成立する場合、COMPLD とともに対応するクロスコネクットのリストが返されます。
2. 一部の有効な AID がマッチしても全部はマッチしなかった場合、COMPLD とともにマッチするクロスコネクットのリストが返されます。
3. すべての有効な AID がマッチしなかった場合、DENY が返されます。

RTRV-CRS-VC3:[<TID>]:VC-9-ALL:<CTAG>、ここで VC-9-ALL は VC-9-{1,2,3,10,11,12} にマッピングされます。その理由は、スロット 3 にシングルポート STM-4 カードがあり、VC-4 が VC-9-4 および VC-9-7 に定義されているからです。セットが検証され、そのセット内のエンドポイントを使用して存在する VC-3 クロスコネクットだけが返されます。クロスコネクットが取得されなかった場合は、COMPLD が返されます。

1.3.2.3 明示的リストと暗黙的リストのグループ化

暗黙的リストを決定した場合、「1.3.2.2 AID の暗黙的リスト — 1つの AID とワイルドカード」(p.1-5) に記載されているルールを暗黙的リストに適用し、「1.3.2.1 AID の明示的リスト — ワイルドカードなし」(p.1-4) に記載されているルールを明示的リストに適用します。2つのサブセットからの結果に、次のロジックを適用します。

1. 明示的リストが COMPLD を返し、暗黙的リストが COMPLD を返す場合、COMPLD およびマッチするリストが返されます。
2. 明示的リストが COMPLD を返し、暗黙的リストが DENY を返す場合、PRTL およびエラーとマッチするリストが返されます。
3. 明示的リストが PRTL を返し、暗黙的リストが COMPLD を返す場合、PRTL およびエラーとマッチするリストが返されます。
4. 明示的リストが PRTL を返し、暗黙的リストが DENY を返す場合、PRTL およびエラーとマッチするリストが返されます。
5. 明示的リストが DENY を返し、暗黙的リストが COMPLD を返す場合、PRTL およびエラーとマッチするリストが返されます。
6. 明示的リストが DENY を返し、暗黙的リストが DENY を返す場合、DENY およびエラーが返されます。

1.4 ユーザセキュリティレベル

ユーザセキュリティレベルは、権限のないユーザによる変更を防ぐ目的で、TL1 セッションをロックするまでに、ユーザがシステムをアイドル状態にできる時間を規定します。セキュリティレベルが高いほど、タイムアウトが短くなります。Release 4.0 以降では、CTC から（スーパーユーザにより）タイムアウトをプロビジョニングできます。タイムアウトをプロビジョニングした場合、現在ログインしていないユーザだけが影響を受けます。ログインしているユーザについては、いったんログアウトして再度ログインしないと、新しいタイムアウトが有効になりません。スーパーユーザは、TL1 で SET-ATTR-SECUDFLT コマンドを使用してセキュリティレベルをプロビジョニングできます。『Cisco ONS 15454 SDH TL1 Command Guide』では、セキュリティレベルが各コマンドおよびメッセージとともに記載されています。

表 1-1 に、セキュリティレベルおよびデフォルトのタイムアウトを示します。

表 1-1 セキュリティ デフォルト タイムアウト

セキュリティ レベル	デフォルト タイムアウト
Retrieve	無制限
Maintenance	60 分
Provisioning	30 分
Superuser	15 分

1.5 キーボード ショートカット

TL1 には、前に発行したコマンドを再度使用するために、コマンドを保存する機能が備わっています。最大で 20 個のコマンドが保存されます。無効なコマンドも含めて、あらゆるタイプのコマンドが保存されます。GNE セッションの場合、Gateway Network Element (GNE; ゲートウェイ ネットワーク エlement) および End-point Network Element (ENE; エンドポイント ネットワーク エlement) の両方に送信されたコマンドが保存されます。

- **Ctrl-R** を押すと、最後に発行したコマンドが呼び出されます。Ctrl-R を押すたびに、その前に発行したコマンドが表示されます。
- **Ctrl-F** を押すと、上記と逆方向にコマンドが呼び出されます。

コマンドを呼び出したあと、Backspace キーを使用し、必要に応じてコマンドを編集できます。カーソル キー (たとえば、左向き矢印および右向き矢印) は、編集には使用できません。



(注)

コマンド呼び出しキーを使用できるのは、シリアルポートセッションまたはインタラクティブ Telnet セッション (たとえば、Telnet <hostname> 3083) を使用する場合に限られます。

CTC TL1 セッションでは、前に発行したコマンドを回復するための独自の手段があります。[「2.1.1 TL1 セッションの開始」\(p.2-2\)](#) を参照してください。

1.6 混合モード タイミングのサポート

TL1 は混合モード タイミングをサポートしていますが、これを実装しないことを強く推奨します。混合モード タイミングは、タイミング ループを発生させるリスクがあるため、推奨されるタイミング モードではありません。推奨される同期プランニングについては、Telcordia ドキュメント GR-436-CORE 『*Digital Network Synchronization Plan*』を参照してください。ONS 15454 SDH のタイミングの設定方法については、『*Cisco ONS 15454 SDH Procedure Guide*』を参照してください。問題が解決されない場合、Cisco Technical Assistance Center (TAC) (www.cisco.com) または (800) 553-2447 までお問い合わせください。

1.7 デフォルト値

1.7.1 MS-SPRing

表 1-2 MS-SPRing のデフォルト値

MS-SPRing	デフォルト
RVRTV	Y
RVTM	5.0 分

表 1-2 MS-SPRing のデフォルト値 (続き)

MS-SPRing	デフォルト
SRVRTV	Y
SRVTM	5.0 分

1.7.2 クロスコネク

表 1-3 クロスコネクのデフォルト値

クロスコネク	デフォルト
CCT	VCp および VC11 クロスコネクの場合、2WAY

1.7.3 環境

表 1-4 環境のデフォルト値

環境	デフォルト
OPR-EXT-CONT	CONTTYPE は、それぞれの AID にプロビジョニングされているものに設定され、デフォルトはありません。入力した場合、フィルタとしてのみ使用されます。DUR は常に CONT とみなされます。
RTRV-ATTR-CONT	CONTTYPE のデフォルトはありません。入力した場合、フィルタとしてのみ使用されます。
RTRV-ATTR-ENV	NTFCNCDE および ALMTYPE のデフォルトはありません。これらを入力した場合、フィルタとしてのみ使用されます。
RTRV-EXT-CONT	CONTTYPE は、AID に対応付けられている制御タイプがデフォルトです。
SET-ATTR-ENV	NTFCNCDE は、NR がデフォルトです。ALMTYPE は、NULL がデフォルトです。ALMMSG は、“Env Alarm Input 1” がデフォルトです。

1.7.4 機器

表 1-5 機器のデフォルト値

機器	デフォルト
ALW-SWTOPROTN-EQPT、 INH-SWTOPROTN-EQPT およ び ALW-SWTOWKG-EQPT、 ING-SWTOWKG-EQPT	DIRN は、BTH がデフォルトです。
ENT-EQPT	PROTID、PRTYPE、RVRTV および RVTM は、NULL がデフォルトです。
SW-DX-EQPT	MODE は、NORM がデフォルトです。
SW-TOPROTN-EQPT および SW-TOWKG-EQPT	MODE は、NORM がデフォルトです。 DIRN は、BTH がデフォルトです。

1.7.5 パフォーマンス

表 1-6 パフォーマンスのデフォルト値

パフォーマンス	デフォルト
INIT-REG-<MOD2>	LOCN は、NEND (near end) がデフォルトです。
RTRV-PM-<MOD2>	LOCN は、NEND がデフォルトです。 TMPER は、15 分がデフォルトです。
RTRV-TH-<MOD2>	MONTYPE は、STM の場合は CVL がデフォルトです。 MONTYPE は、VCp の場合は ESP がデフォルトです。 MONTYPE は、VC11 の場合は UASV がデフォルトです。 LOCN は、NEND がデフォルトです。 TMPER は、15 分がデフォルトです。
SET-PMMODE-<VC_PATH>	PMSTATE は、ON がデフォルトです。
SET-TH-<MOD2>	LOCN は、NEND がデフォルトです。 TMPER は、15 分がデフォルトです。

1.7.6 ポート

表 1-7 ポートのデフォルト値

ポート	デフォルト
STM 回線	DCC は、N がデフォルトです。 TMGREF は、N がデフォルトです。 SYNCMSG は、Y がデフォルトです。 SENDDUS は、N がデフォルトです。 PJMON は、0 がデフォルトです。 SFBER は、1E-4 がデフォルトです。 SDBER は、1E-7 がデフォルトです。 MODE は、SDH がデフォルトです。 PST は、OOS がデフォルトです。

1.7.7 SDH 回線保護

表 1-8 SDH 回線保護のデフォルト値

SDH 回線保護	デフォルト
EX-SW-<STM>	ST (switch type) は省略可能です。MS-SPRing 保護切り替えの場合のみ、ST は MS-SPRing スイッチタイプがデフォルトです。
STM 回線保護	PROTID は、保護グループの保護ポートがデフォルトです (SLOT-#(OCN)PORT-#)。最長 32 文字の文字列です。 RVRTV は、N (non-revertive モード) がデフォルトです。 RVTM は、5.0 分がデフォルトです。 PSDIRN は、UNI がデフォルトです。
OPR-PROTNSW-<STM>	ST (switch type) は省略可能です。MS-SPRing 保護切り替えの場合のみ、ST は MS-SPRING スイッチタイプがデフォルトです。

1.7.8 VC パス

表 1-9 VC パスのデフォルト値

VC パス	デフォルト
VC パス	<p>SFBER、SDBER、RVRTV、および RVTM は、SNCP VC パスにのみ適用されます。</p> <p>SFBER は、1E-4 がデフォルトです。</p> <p>SDBER は、1E-6 がデフォルトです。</p> <p>RVRTV は、N がデフォルトです。</p> <p>RVTM は、空白がデフォルトです (SNCP VCp の作成時に RVRTV は N であるため)。</p> <p>J1 は、DS3i-N-12、STM1、STM16、および STM64 カードに実装されます。</p> <p>TRCMODE は、OFF モードがデフォルトです。</p> <p>EXPTRC のデフォルトはプロビジョニングされた文字列のコピー、または TRCMODE が OFF モードの場合は NULL です。</p> <p>EXPTRC のデフォルトは、TRCMODE が MANUAL モードの場合はユーザが入力した文字列です。</p> <p>EXPTRC のデフォルトは取得した受信文字列のコピー、または TRCMODE が AUTO モードで文字列を取得していない場合は NULL です。</p> <p>INCTRC のデフォルトは、TRCMODE が OFF モードの場合は着信文字列 (NULL) です。</p> <p>INCTRC のデフォルトは受信文字列のコピー、または TRCMODE が MANUAL または AUTO モードで文字列を受信していない場合は NULL です。</p>

1.7.9 同期

表 1-10 同期のデフォルト値

同期	デフォルト
BITS	<p>LINECDE は、B8ZS がデフォルトです。</p> <p>FMT は、ESF がデフォルトです。</p> <p>SYNCMSG は、Y がデフォルトです。</p> <p>PST は、OOS がデフォルトです。</p>
NE-SYCN	<p>TMMDE は、EXTERNAL がデフォルトです。</p> <p>SSMGEN は、GEN1 がデフォルトです。</p> <p>QRES は、SAME-AS-DUS がデフォルトです。</p> <p>RVRTV は、Y がデフォルトです。</p> <p>RVTM は、5.0 分がデフォルトです。</p>
SYCN	<p>PRI/SEC QREF は、PRS がデフォルトです。</p> <p>PRI STATUS は、ACT がデフォルトです。</p> <p>SEC STATUS は、STBY がデフォルトです。</p> <p>THIRD QREF は、ST3 がデフォルトです。</p> <p>STATUS は、STBY がデフォルトです。</p>

1.7.10 テスト

表 1-11 テストのデフォルト値

テスト	デフォルト
OPR-LPBK	LPBKTYPE は、FACILITY がデフォルトです。
RLS-LPBK	LPBKTYPE は、現在のループバック タイプがデフォルトです。

1.8 パラメータ タイプ

ここでは、ONS 15454 SDH で使用される TL1 メッセージ用に定義されているメッセージパラメータの全タイプについて説明します。各コマンドの説明で、個々のパラメータが示されます。

1.8.1 ATAG の説明

自律メッセージタグ (ATAG) を使用して、メッセージの順序付けが行われます。自律メッセージには4つのストリームがあり、各ストリームが1つのシーケンスに対応します。シーケンス番号は、そのストリーム内の自律メッセージごとに1ずつ大きくなります。ATAG の形式および範囲は、ストリームごとに異なります。4つのストリームは、次のとおりです。

1. アラーム イベント :

これらのイベントとしては REPT ALM および REPT EVT (REPT EVT SESSION を除く) メッセージのほか、REPT SW 自律メッセージが含まれます。

ATAG の形式 : x.y

ここで、

x — このアラーム イベントのシーケンス番号。0 ~ 9999 の範囲の整数です。

y — このアラーム イベントと関連性のある、先行するアラーム イベントのシーケンス番号。0 ~ 9999 の範囲の整数です。

このような関連性のある先行イベントがない場合、y は x と同じになります。たとえば、あるアラームが初めて生成された場合、次の自律メッセージが返されます。

```
TID-000 1998-06-20 14:30:00
* 1346.1346 REPT ALM T1
"FAC-1-1:MN,LOS,NSA,,,,:\“Loss Of Signal”,DS1-14”
;
```

このアラーム イベント / 条件がクリアされた時点で、次の自律メッセージが返されます。

```
TID-000 1998-06-20 14:31:00
A 1349.1346 REPT ALM T1
"FAC-1-1:CL,LOS,NSA,,,,:\“Loss Of Signal”,DS1-14”
;
```

2. データベース変更メッセージ :

REPT DBCHG メッセージは、このカテゴリに属します。

ATAG の形式 : x

ここで、

x — データベース変更アップデート メッセージのシーケンス番号。0 ~ 9999 の範囲の整数です。次に例を示します。

```
TID-000 1998-06-20 14:30:00
A 96 REPT DBCHG
"TIME=18-01-05,DATE=1970-01-01,SOURCE=2,USERID=CISCO15,
DBCHGSEQ=96:ENT-EQPT:SLOT-3”
;
```



(注) ATAG は、REPT DBCHG 出力の DBCHGSEQ フィールドと同じです。

3. PM レポート :

REPT PM メッセージは、このカテゴリに属します。

ATAG の形式 : x

ここで、

x — PM レポートのシーケンス番号。0 ~ 9999 の範囲の整数です。次に例を示します。

```
TID-000 1998-06-20 14:30:00
```

```
A5 REPT PM DS1
```

```
“FAC-3-1:CVL,10,PRTL,NEND,BTH,15-MIN,05-25,14-46”
```

```
;
```

このシーケンス番号は、既存のすべての PM スケジュールでグローバルです。

4. TL1 セッション固有の自律メッセージ。これらのメッセージは通常、TL1 セッションのセキュリティに関連しています。自律メッセージ REPT EVT SESSION および CANC だけが、このカテゴリに属します。0 ~ 9999 の範囲の整数です。

次に例を示します。

```
TID-000 1998-06-20 14:30:00
```

```
A 1 CANC
```

```
“User”
```

```
;
```

1.8.2 CTAG の説明

CTAG は、ユーザが各コマンドで指定すると、それに対する NE の応答で繰り返されます。これにより、コマンドと応答メッセージの対応付けが可能になります。CTAG の有効な値は、識別子（先頭を英字とする英数字）からなる最大 6 文字の文字列、または 10 進数値（数字の文字列、末尾以外の場所で任意に「.」を使用可）です。

応答フィールド内の 0 は、エラーを表す場合に有効です。たとえば、セミコロンだけを発行すると、次の結果になります。

```
TID-000 1998-06-20 14:30:00
```

```
M 0 DENY IISP
```

```
/* Input, Garbage */
```

```
;
```

1.8.3 TID の説明

TID は、コマンドの対象となる NE の名前です。TID は、システムの Telcordia 名です。

1.8.4 パラメータに関する注意事項

- データベースにすでに存在するものと整合しない値にパラメータを設定し、その値を整合する値に変更しない場合、コマンドは拒否されます。
- データベースにすでに存在するものと整合する値にパラメータを設定しても、同じコマンド内の他のパラメータが整合しない場合、コマンドは拒否されます。
- パラメータが矛盾している可能性のあるコマンドを発行するための正しい方法は次のとおりです。
 - そのコマンドを発行し、関連するすべてのパラメータを適正な値に変更します。
 - コマンドを再度発行し、ターゲット値を変更します。

1.8.4 パラメータに関する注意事項

たとえば、OC-N が `syncmsg=y` である場合、SDH を `y` に変更するには、ED-OCN をコールして `syncmsg=N` に設定し、もう一度コールして `SDH=y` に設定する必要があります。

4. RTRV コマンドではアトリビュートのデフォルトも提示されています。これらは、カード / エンティティの最初のプロビジョニングに続いて RTRV コマンドを発行する場合にのみ取得可能です。
5. ED コマンドの省略可能なフィールドのデフォルトは、プロビジョニングされたデフォルト値、または直前の ED コマンドでプロビジョニングされた値です。